

2020年度 自己評価結果公表シート

富山短期大学附属みどり野幼稚園

1 本園の教育目標

- 1 心も体も健康でいきいきとした子ども
- 2 自分の思いや考えにもとづいて、園の生活に取り組む子ども
- 3 友だちと共に園の生活を楽しみ、意欲的に行動する子ども
- 4 身近な自然や人とのかかわりに心を動かし、感じたことや考えたことを素直に表現する子ども

2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼稚園型認定こども園としての安定した運営を基盤としながら

- ① 安全かつ安心できる生活と、幼児期にふさわしい経験の提供
- ② 教育課程等の見直しと保育実践への反映

を柱とする。

<昨年度の公表シートから：令和3年度に取り組むべき課題>

① 教育課程・指導計画、日課等の検討

新教育要領や教育保育要領をふまえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識した、教育課程及び指導計画の作成を行う。また、多様な保育時間の子どもの生活を考え、個々の発達に配慮した日課の作成及び園の実態を反映した指導計画の作成を検討する。

② 健康で安全な生活と豊かな遊び環境の保障

感染症やアレルギーなど、健康や衛生面への対応を向上させる。危機管理意識を持ち、安全な環境づくりや安全教育の充実を行う。同時に、子どもが主体的に関わり、遊びや活動に没頭できる環境づくりを検討する。

③ 園の保育の質向上

個々の職員の研修の充実、園内研修の充実等により、園全体の保育力向上を図る。

④ 開かれた園づくり

卒園児やその家族、学園関係者等との交流を積極的に図ると同時に、子育て支援や地域交流を通して、開かれた園づくりに努める。

3 評価項目の達成及び取り組み状況

① 園運営

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、休園・分散登園等の検討や感染症対策、職員の勤務調整や物品の調達など、予期せぬ事案が多く、状況判断を行いながら園運営を方向づけていく必要があった。大変なことが多かった半面、保護者や関係機関との関係や行事の持ち方、通常の保育内容など、その都度協議しながら進めていく中で、従来の運営方法を見直しよりよい方法を見出す契機にもなった。本年度の取り組みを整理し、次年度以降の園運営の改善につなげていきたい。また、幼稚園型認定こども園としての運営も2年目となり、概ね見通しをもつことができるようになった。次年度は、業務全体の見直しを図り、業務改善に着手していきたい。本年度より満3歳児保育を開始したことで、生活面での保育指導や環境設定の工夫等、園全体の保育に新たな視点を定めることができた。次年度は一層の充実を図りたい。全体として、保育の長時間化、配慮を必要とする園児の増加に対応できるよう、職員体制を整えていきたい。

② 教育課程	<p>昨年度に「育むべき10の姿」に即して行った教育課程の見直しを、本年度の計画作成に活かし、具体的な実践を重ねた。発達年齢に応じた10の姿につながる「ねらい」の設定と具体的実践をエピソード事例として紹介し、全職員で振り返りを行った。今年度の取り組みを、次年度の教育課程の取り組みに活かしていきたい。</p>
③ 保育指導	<p>4月当初より、新型コロナウイルスの影響で、自由登園、自粛要請、分散登園が続く中で、少人数の保育からスタートできたことが、新しい生活様式を子どもたちに定着させるためにも、保護者との信頼関係を育むうえでもプラスとなった。一方、コロナ禍で、園外での活動や、園全体で楽しむ行事、食に関する活動などは制限されることも多く、園内に自然を取り込んだり、クラス別に行事を楽しんだり工夫しながら、子どもの経験内容が縮小されないように配慮した。次年度も、感染症の状況を見ながら、経験内容の充実に工夫を行っていきたい。</p>
④ 幼児理解	<p>一人一人が多様な個性を表現する中で、できるだけ子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わることで、幼児理解に努めてきた。一人一人の個性を大切にしつつ、仲間やクラスの中で互いに認め合う関係が構築されるように配慮することで、新たな子どもの姿が見られ、幼児理解が深まった。</p>
⑤ 健康・安全	<p>新型コロナウイルス感染症対策の重要性から、健康面のチェックや衛生面の配慮等に努め、必要な備品・物品購入、相互チェック体制の充実を例年以上に厳密に行った。給食に関して、いくつかの課題がみつき、業者と連携しながら改善に努めた。コロナ禍の生活が影響し、子どもの運動量低下が気付きである。ヒヤリハット事例を参考とした安全な環境づくりに努め、体を使ったダイナミックな活動に取り組んでいきたい。</p>
⑥ 子育て支援	<p>1号認定の預かり保育の拡大（午前保育日も対象とする）、新2号認定の支援充実を行った。コロナ禍においても、保育が必要な家庭の支援を欠くことのないよう努めてきた。感染症対策として、保護者の送迎場所の限定や行事縮小を行ったため、十分な保護者との対話ができなかった。ブログを活用しながら、生活状況の共有や、保育活動への参加を促す発信を行ったことは、有意義であった。</p>
⑦ 職員の研修及び資質向上	<p>コロナ禍であり、県外での研修や公開保育参加は行えなかったが、私立幼稚園協会等主催のリモート研修に多くの職員が参加できたことで、個々の学びが深まった。また、関係団体の研修企画に携わる職員、富山県幼児教育センターの推進リーダーとして育成研修に取り組む職員などが、最新の幼児教育の情報や他園の取り組みなどを学ぶ機会を得たことで、園内研修の充実につながっていくと思われる。</p>
⑧ 地域との交流	<p>コロナ禍で、地域との交流行事は行えなかったが、手紙を介したやりとりや、学園内の高校生・短大生との交流を行った。年長児は、自分たちの関心事に基づいて、地域社会の施設を積極的に利用する取り組みを行うことで、社会生活への関心を高めた。子育てサークルを25回実施し、地域の子育て家庭への支援を行うと同時に、講師やボランティアとして幼稚園児の保護者や卒園児の保護者等を招くなどした。園としての社会的な交流が推進されたと考える。</p>

＜全体的な評価＞

本年度は、新型コロナウイルスの影響で、計画どおりに実施できないことが多かったが、現状でできることを模索し、新たな取り組みに挑戦する中で、改めて、子どもに経験させたい内容や園が果たすべき役割を、全職員で確認することができた。前例に縛られない『コロナ禍の保育』だからこそその気づきを大切に、子どもの経験と緊密な保護者との連携を導く具体的方法を検討し、実践に結び付けていく必要があると考える。

＜次年度に取り組むべき課題＞

① PDCA サイクルの充実、保育記録の検討

本年度に取り組んだ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえた指導計画作成と保育実践の振り返り（PDCA サイクル）の充実を図るためにも、指導のねらいを適切に評価し、保育改善につなぐ保育記録の方法を検討する。

② 健康で安全な生活の保障

新型コロナウイルス対策を継続して実施し、感染症対策に努めるとともに、子どもに必要な経験（園内外での集団活動や食に関する活動を含む）を保障するための、配慮や工夫を検討する。

③ 保育内容の充実（多様な学びと表現を重点に）

園内及び園庭環境と子どもの活動との関連を評価し、多様な学びと表現を導く保育環境や保育方法の工夫を行う。

④ 保護者との情報共有

日常的な保護者との情報共有を向上させることで、信頼関係の構築に努める。

関係者評価＜保護者代表、短期大学教員＞から得た意見を参考に、一層の教育内容及び子育て支援に努めていきたいと思っております。

富山短期大学附属みどり野幼稚園
園長 石動 瑞代